

3. 活動内容

A 防災

■命と安全を守る授業

毎年、全クラスで学級担任が「命と安全を守る授業」を複数回実施しています。防犯・防災・いじめ・交通安全などについて、子どもが安全に生活する方法について学んでいます。

【実践紹介】4年「こんな時どうする？」

一人で留守番をしている時に不審な電話がかかってきた場合に、どのような対応をすればよいのかについて、具体的な例を挙げながら考えていきました。各家庭で指導されていることを交流する中で、今まで知らなかった対応についても学ぶこととなりました。

■防災訓練

「防災宿泊訓練」

隔年（昨年度実施）で3年生以上が宿泊防災訓練を実施しています。

「防災引取訓練」

保護者による児童のお迎えを想定し毎年実施しています。11月に各学年の保護者が時間差で来校し、担任から子どもを引き取る形で実施しました。

B：国際理解

■英語のカリキュラム

低学年から英語に触れる学習を取り入れ、外国の方とのコミュニケーションを図るための素地を養う取組を継続しています。

【各学年の目標】

1・2年生【外国語活動＋特別活動】

基本的な挨拶や自己紹介の仕方を知り、ALT や JICA 研修生との交流から世界の国々や文化への関心を高める。

3・4年生【外国語活動＋特別活動】

基本的な英語の音声や表現に親しみ、ALT や JICA 研修生との交流から簡単な文でコミュニケーションできる素地を養う。

5・6年生【英語科】

基本的な英語の音声や表現についての進展を図り、ALT や JICA 研修生との交流の中で簡単な意見や感想を述べるなどコミュニケーションの基礎を養う。

【実践紹介】

英語では、隣接する附属中学の英語教師による授業を高学年で実施しました。また、国際貢献としての JICA 研修生の受け入れ（2週間）のほか、カナダからの留学生との交流等、外国人との触れ合いを多くもつことにより、文化の違いや多様性を尊重する姿勢が少しずつ身についてきています。

JICA の研修生（教育関係者・教員）との交流では、日本の食文化を通訳なしで伝える6年生の姿が見られました。



C：環境・エネルギー

■ 5年総合「エネルギーの使い方～北海道のエネルギー～」

北海道のエネルギー使用量が突出していることに触れました。子どもからは、「節電など、節約する必要がある。」などの省エネを意識した意見が多い中、「土地が広いから仕方がない。」「寒くて暖房が必要なので仕方がない。」という意見もでました。また、一方「今は何も困っていないから問題ない。」という意見も出るなど、エネルギー問題や地球環境に関わる問題意識を生む学習の必要性が明らかとなりました。

■ 5年総合「エネルギーの使い方～地球温暖化の仕組み～」

フラスコの中の二酸化炭素により気温が上昇することを実験で明らかにしました。そこで、平均気温 1°C の上昇が地球の大きな影響を与えることを学び、「たった 1°C ではなく、 1°C 上がっただけで大きな影響がある。」「たった 1°C の上昇で地球が変わる。」という思いを引き出しました。温暖化の影響に目を向ける学習となりました。



■ 6年総合「将来のエネルギー」

電気を発電する方法を確認しました。そして、そこからエネルギー自給率や発電方式の割合を学ぶ学習としたことで、子どもは、将来に渡って今の生活水準を守るためには、様々な問題を乗り越えなければならないことに目を向けました。以下子どもの振り返りを紹介します。

- ・日本は技術があるのに、資源がないからやりたいことができなくて、すごくもったいない。
- ・再生可能エネルギーを効率的に利用していく。
- ・北海道ならではのやり方で、雪や氷を使ったらいいんじゃないかと思います。

■ 6年理科「生き物と環境」

水草などの水中の植物も光合成をしているのかについて追究する学習を実施。BTB溶液が入った試験管にオオカナダモを入れ、光合成や呼吸が行われているのかを探りました。水中においても気体の交換が行われることを学ぶきっかけとなり、様々な要素が調和して今の自然界が成り立っていることを学びました。二酸化炭素が植物によって酸素に作りかえられていることを再認識する機会となりました。



D：食育

■ 5年家庭科「野菜の力」

実験を通して、野菜の種類によって抗酸化の働きが異なる事実を明らかにする活動を行いました。子どもはニンジンやピーマンなどの緑黄色野菜だけではなく、もやしや大根などの淡色野菜にも抗酸化物質が多く含まれることに驚いていました。この学習は、活性酸素と戦う野菜に目を向けることに加え、人体に悪い影響を及ぼす活性酸素を抑える食事について考える実践となりました。

■ 5年総合的な学習「体元気プロジェクト」

北海道は全国的に見て、児童の体力が低い傾向にあり、また本校には、やせ気味の子どもが見られます。そこでこの課題を解決するために、児童の生活習慣・運動能力を把握し、運動・栄養・休養の指導を行う「からだ元気プロジェクト」というプログラムを実施しました。

本単元はスポーツテストの結果や生活習慣の記録から、児童自ら問題意識をもち、運動・食事・睡眠の点から、生活の仕方を分析し、より元気になるよう改善する学習です。また、収集した情報を整理し、自分なりに活用することを育む力と設定しました。

4 成果と課題

【防災】

成果：全校一斉に取り組むことで、防災教育に関する職員の意識の高まりが見られました。また、指導内容の充実へ向けて意欲的に取り組むことで、児童の理解がより深くなっています。

課題：より切実感のある話題を取り上げた授業展開にしたり、災害の想定をより現実的にしたりするなど、現実に対応した授業改善を図る必要があると考えます。

【国際理解】

成果：外国語や外国の文化に数多く触れることで、違いを尊重する姿勢が身に付いてきています。英語の授業の充実により、英語によるコミュニケーション力も高まってきています。

課題：JICA 研修生や留学生の受け入れはそう多くはないので、機会を見つけて外国語の文化に触れるような場を設定していく必要があります。

【環境教育】

成果：環境に関する内容は、複数の教科を関連させたことで、生活に生きて働く知識や技能として定着してきています。

課題：1年生から6年生までの系統性を今以上に考えた指導を展開することで、更に環境問題への意識を向けていけると考えています。

【環境・エネルギー】

成果：身近にあるエネルギー問題への興味・関心が高まってきています。見方を少し変えるだけで様々な考えをもつことができるという学びが非常に効果的と考えます。

課題：エネルギー問題への職員の意識を今以上に高め、指導内容の充実を図ることが課題です。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）